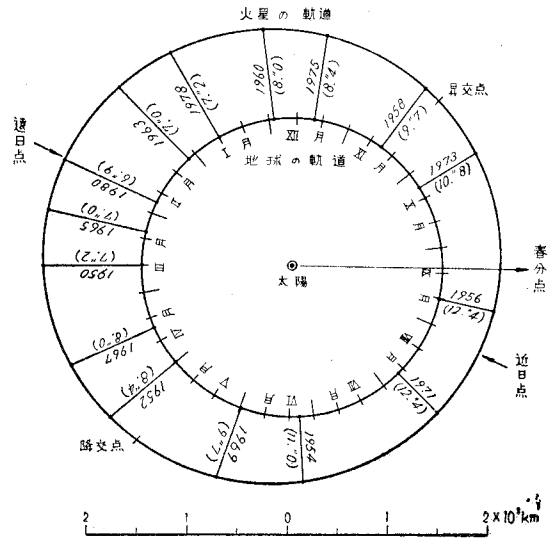


◇3月の天文暦◇

日時	記	事
3 19	朔	
3 23	天王星 衝	
6 4	啓蟄 (太陽黄経 345°)	
6 5	冥王星 衝	
9 21	火星 衝	
11 3	上弦	
12 10	火星 地球最近	
14 18	月 最近	
17 2	火星 月の 1° 南	
17 20	望	
21 5	春分 (太陽黄経 0°)	
22 5	水星 東方最大離隔	
25 11	下弦	
26 15	月 最遠	
29 20	水星 留	



火星接近図 (1950~80)

数字は西暦年号, () 内は火星の視半径

火星の接近

3月12日には久しぶりに火星が接近する。火星の公転周期は687日であるから780日おきに衝になるわけだが、その軌道がかなりいびつな楕円(離心率 0.093)であるため、その時の距離は5600万kmから1億kmまで変化する。ケプラーが例の楕円軌道の法則と面積速度の法則を見つけることができたのは、彼の師ティコ・ブラーエの熱心な観測による豊富なデータのおかげだが、彼のえらんだ惑星——火星の大きな離心率によるところも大きいとは有名な話である。

今回の衝は火星の遠日点付近でおこるため条件として

東京における日出入および南中 (中央標準時)

III月	夜明	日出	方位	南中	高度	日入	日暮
1	時 5 分 37	時 6 分 12	- 8°6'	時 11 分 54	46°8'	時 17 分 36	時 18 分 8
11	5 26	5 58	- 4.0	11 51	50.5	17 45	18 17
21	5 12	5 44	+ 0.8	11 48	54.5	17 53	18 25
31	4 58	5 30	+ 5.5	11 45	58.4	18 1	18 34

はかなり悪い。しかし、南中時の高度が比較的高いこと(赤緯+8°5', 東京での高度 62°8'), 火星の北極がこちらを向いていること(火星中央緯度+21°, 北半球の夏)など今回でなければえられない条件も多い。またアメリカのマリナー4号(7月に火星に近づく)、ソ連のゾンド2号と2つの火星ロケットが打ち上げられており、その成果が期待される。(⊕)

接近のデータ:

黄経の衝 3月9日21時 (J. S. T.)

赤経の衝 3月11日3時 (")

最接近 3月12日10時 (")

距離 0.669 天文単位=1億km

視半径 7'0"

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出, 右側は日入に対する値)

分	分	分	分	分	分
鹿児島	+36	+37	鳥取	+23	+22
福岡	+37	+37	大阪	+10	+17
広島	+29	+29	名古屋	+10	+11
高知	+24	+25	新潟	+3	+3
			仙台	-5	-5
			青森	-3	-5
			札幌	-5	-8
			根室	-23	-25

